

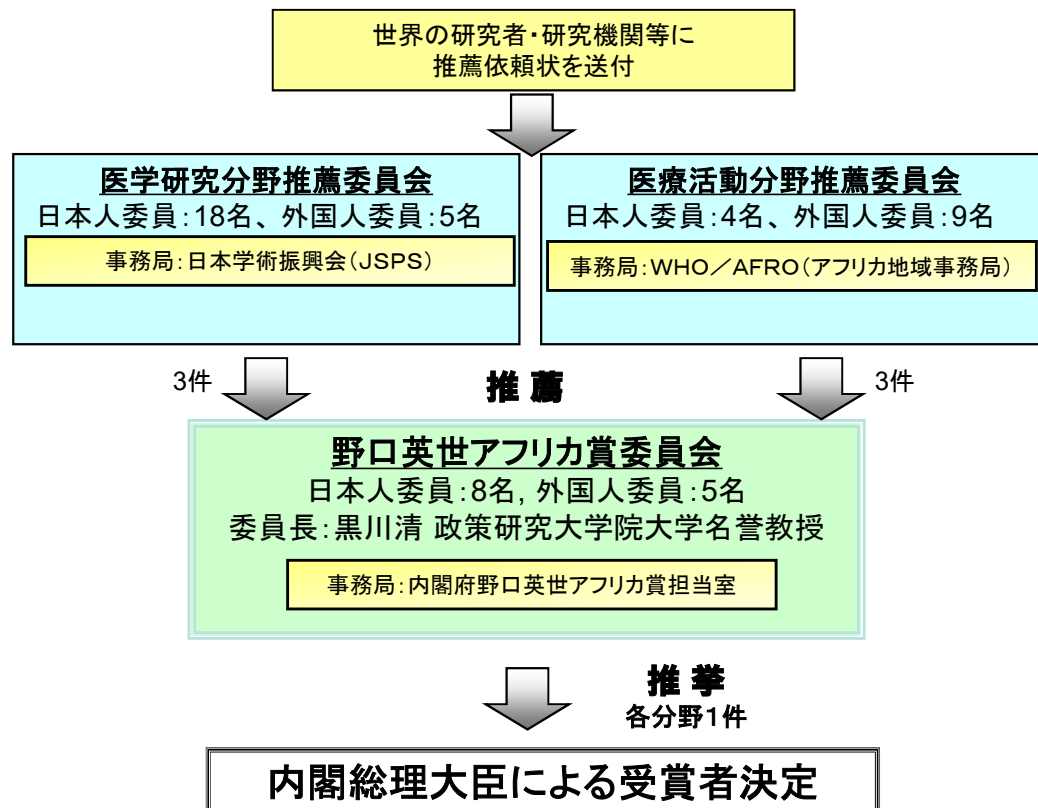
野口英世アフリカ賞

平成31年4月
内閣府野口英世アフリカ賞担当室

1 野口英世アフリカ賞とは

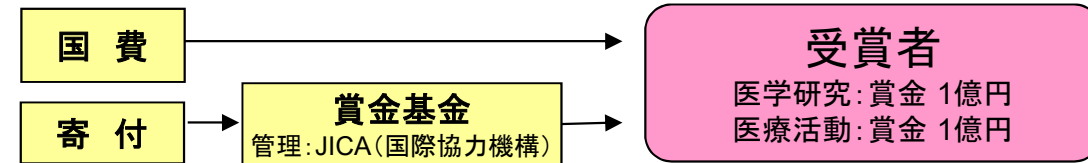
- 2006年5月の小泉総理(当時)のガーナ訪問時、ガーナで亡くなった野口英世博士の功績に因み、本賞について着想。2006年7月閣議決定にて創設。
- アフリカで蔓延している感染症等の疾病対策のために貢献した個人・団体を顕彰する賞。分野は医学研究・医療活動の2分野。
- TICAD日本開催の際に授賞式及び晩餐会を開催。(第1回:2008年5月, 第2回:2013年6月, 第3回:2019年8月)

2 選考・授賞までの流れ(第3回)



3 第1回及び第2回受賞者

(1) 賞金



(2) 第1回野口英世アフリカ賞受賞者(2008年)



ブライアン・グリーンウッド博士
(英国)

ロンドン大学熱帯衛生医学校教授
授賞業績: (医学研究分野)
アフリカでの30年以上にわたるマラリアをはじめとする感染症の免疫病理学、疫学、人類学、行動学等に及ぶ多角的研究と実践対策に功績。



ミリアム・ウェレ博士
(ケニア)

ケニア国家エイズ対策委員会委員長
授賞業績: (医療活動分野)
40年間にわたり、地域レベルへの医療サービスの提供の実践面に焦点を当てて、アフリカの人々の健康と福祉の増進に献身。

(3) 第2回野口英世アフリカ賞受賞者(2013年)



ピーター・ピオット博士
(ベルギー)

ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長
授賞業績: (医学研究分野)
アフリカでエボラ出血熱やエイズなどの感染症について調査研究し国際的な対策を推進。



アレックス・G・コウティニョ博士
(ウガンダ)

マケレレ大学感染症研究所所長
授賞業績: (医療活動分野)
エイズ感染者の治療機会を増やす先駆的な活動を続け、予防と治療の仕組みの普及に尽力。

以上